

## 令和4年度 第66回兵庫県高等学校総合体育大会登山大会 結果

## 大会概要

<u>期 日</u>	2022（令和4年）6月4日（土）～5日（日）		
<u>場 所</u>	氷ノ山（氷ノ山後山那岐山国定公園）		
<u>大会日程</u>	【1日目】 開会式，幕営審査，天気図作成・知識審査，装備審査 【2日目】 縦走競技（特区・読図），閉会式		
<u>参加校</u>	男子21校 女子11校 （審査対象 男子16校 女子6校）		
<u>成 績</u>	男子 第1位 神戸高校            第2位 長田高校            第3位 柏原高校 第4位 兵庫工業高校    第5位 西脇工業高校    第6位 御影高校 女子 第1位 長田高校            第2位 御影高校            第3位 市立姫路高校		

## 審査項目

	審査項目	審査内容	配点	
I	<u>登山行動</u>			
	a 縦走	縦走コースの所要時間	15	
	b 特区タイムレース	特区コースの所要時間	25	
II	<u>生活技術</u>			
	a 装備	必要品の所持	5	
	b 設営・撤収	適切な設営手順	5	
III	<u>知識</u>			
	a 天気図	天気図の作成と解析	4	
	b 知識テスト	山域に関する共通問題に加え、登山知識、救急知識、気象知識の専門問題	12	
IV	<u>読図</u>	読図・地形観察の現地での即応力	10	
V	<u>マナー・自然保護</u>	マナー全般	4	
VI	<u>その他</u>	不正行為等の減点事項	—	
			合計	80

## 全体講評

新型コロナウイルス感染症の影響により、一昨年度は大会自体が実施できず、昨年度も大会コースを鉢伏山周辺に変更して大幅に縮小しての開催でした。今年度も引き続きコロナ禍での開催となりましたが、少しずつ状況が落ち着いてきていることもあり、まだまだ完全とはいきませんが従来の形を縮小しての大会を実施することができました。しかしながら、まだまだ十分にトレーニングや山行が行えていない学校が多くあり、2日目の登山行動では、サブザックで行動したり顧問とともに行動したりと審査に参加できないチームもありました。早くコロナ禍の状況が落ち着き、各校が十分にトレーニングなどの準備を行い、従来に近い形での大会が実施できるようになることを願ってやみません。

このような状況下での大会とはなりましたが、どの学校もそれぞれの競技に一生懸命に頑張る姿は本当に素晴らしいもので、この大会に臨む気合が十分に感じられました。特に、特区タイムレースの上位は、男子が63分6秒、女子が37分1秒と驚くべきものでした。様々な制約下での練習だったことと思いますが、普段から各校でできる限りの練習を積み重ねていることが伺える結果かと思えます。男子の神戸高校は昨年度より2連覇、そして女子の長田高校はなんと8連覇という快挙です。男女の優勝校は香川県で開催される全国大会、男子の5位までと女子の2位までは本県で開催される近畿大会に出場することとなります。各大会での健闘を期待しています。

各審査項目の講評を次頁以降の「審査ごとの講評」に掲載します。内容をよく読んで、今後の登山大会や普段の安全登山に活用してください。なお、知識審査では天気図と共通問題に訂正があり、選手の皆さんに混乱を与える結果となってしまいました。大変申し訳ありませんでした。登山大会は、近畿大会や全国大会といった上位大会への出場権を競うものではありませんが、より安全かつ充実した山行を実施するための知識やスキルを競い合い、お互いに高め合うことに意義があります。まだまだ制約の多い中での活動が続くこととは思いますが、山行を楽しむために今この状況でもできることを考え、地道な練習を通して登山の技量を高めていってくださることを期待しています。また、普段の山行からただ目的地に向けて歩くだけでなく、道端に咲いている花や聞こえてくる鳥の鳴き声など、入山する山域に生息する植物や動物にも興味を持ち、様々な視点から山行を楽しむ姿勢を身に付けて欲しいと思います。

最後になりましたが、大会の開催にあたっては開催地の方々に大変お世話になっております。そのことに感謝しながら、使わせていただいている施設や登山道などを荒らさないよう、各自が意識して欲しいと思います。山行は人里から遠く離れた山域という特殊な環境で行う活動です。審査項目に「マナー・自然保護」があるように、お互いに気配りのできる行動を心がけたいものです。

## 審査ごとの講評

### I 登山行動

#### a 縦走

大会 2 日目は雨が心配されましたが、大会終了までは天気も持ち、全体的に曇り空であったため日差しが遮られて暑くなることもなく、結果的には過ごしやすい気候の中での山行となったのではないかと思います。1 校が時間の計算を誤ったとのことでタイムオーバーとなってしまいましたが、それ以外の学校は制限時間内にゴールすることができました。

今年度は、体力や山行経験の不安からサブザックで行動したり、顧問とともに行動したりしたチームもありました。コロナ禍で十分なトレーニングができていないことが一因かと思いますが、重いメインザックを担いでの行動、悪天候の中での行動など様々な環境下での山行が考えられます。まだまだ様々な制約下での練習となるかと思いますが、どのような環境にも対応できる体力と知識を十分に身に付けられるような練習を日頃から心掛けておきましょう。

#### b 特区タイムレース

##### ◆ 結果

<u>男子</u>	1 位 神戸	63' 06"	2 位 柏原	65' 23"	3 位 長田	66' 07"
	4 位 兵庫工業	76' 52"	5 位 西脇工業	78' 40"	6 位 御影	88' 31"
<u>女子</u>	1 位 長田	37' 01"	2 位 御影	46' 03"	3 位 姫路	51' 43"

##### ◆ 講評

昨年度に引き続き限られた審査項目での実施となったため、特区の点数が総合成績に大きく影響しました。コロナ禍で思うように練習時間が取れない中での大会だったことと思いますが、隊列が乱れることもなくしっかりとした歩行ができていたように思います。上位のチームの成績は目を見張るものがありました。日頃からしっかりと練習して体力の強化に励むのはもちろんのことですが、山岳地帯という特殊な環境での競技ですので、これからも安全性に十分に気を配った歩行を心掛けてください。

### II 生活技術

#### a 装備

##### ◆ 審査項目 (合計 5.0 点)

・ 共同装備 各 0.5 点 計 1.0 点

① コンロ ② 温度計

・ 個人装備 各 0.8 点 (0.2 点/人) 計 4.0 点

① 計画書 ② ヘッドランプ ③ コンパス ④ サブザック ⑤ 腕時計

##### ◆ 講評

今回の大会では、審査基準の「夏季 3,000 m クラスの山行 (2 泊 3 日) を 1 パーティー 4 人で行う場合を想定した装備を携行し、その数量と管理が適切であるか。」に則して、上記の装備項目を選びました。共同装備は、今大会では炊事審査は実施しませんでした。「コンロ」を持参しているか、またコロナ禍で毎日の体温管理をするために必要な「体温計」を携帯しているかを審査項目としました。個人装備は、「計画書」

と「ヘッドランプ」の2項目については防水がなされていない場合には半分の0.1点としました。「コンパス」は、プレート付きかどうかを確認しました。また、大会での登山行動はメインザックとなっていました。審査内容に則して「サブザック」を持参しているかどうかを審査しました。「腕時計」については、登山行動中など常に時間を確認できるように、置時計は不可としました。

登山をする際には、装備リストを掲載した計画書を作成し、山行前には必ず装備品を確認すべきです。また、すぐに取り出す必要があるものなのかそうでないのか、防水を必要とするものなのか否か、装備の用途によって収納する場所をよく考えて適切に所持するようにしましょう。

## b 設営・撤収

### ◆ 審査項目

#### ・設営中

- ① ポールの扱い方（ポールを地面に放置しない）
- ② テントの扱い方（テントを土足で踏まない）
- ③ 袋類の管理（散乱していない）
- ④ ペグ打ち（手袋をペグ側にはく）
- ⑤ ザックの整理
- ⑥ ザックの雨蓋（雨蓋が閉じている）
- ⑦ 撤収時について（今回は審査せず）

#### ・仕上がり状態

- ⑧ エリア内での設営（ザックや設営作業を範囲内で行う）
- ⑨ ペグの打ち込み状態（本数不足、張網埋没、位置不適切、強度不足）
- ⑩ 張網の処理（適正な張り方になっているか）
- ⑪ ハンマーのテント内収納ができています
- ⑫ 完成度（フライや本体のファスナーが閉じる、ザックが収納されている）

### ◆ 講評

第62回大会までの数年間（第63, 64, 65回は設営審査の実施なし）は時間内にすべてのパーティーがテント設営を完成させていましたが、今年は時間内にテントを設営することができなかったパーティーがいくつかありました。コロナ禍で十分なテント設営の経験が積めずメンバー間の連携がうまくいかなかった、新しいテントに買い換えたなど原因は様々ですが、完成に至らなかったパーティーは今後の山行に備えて、技術の向上に努めて下さい。

袋類をそのまま地面に放置する、ザックの整理ができていないなど、悪天時の3,000m級稜線でのテント設営を想定できていないパーティーがありました。また、約半数のパーティーがペグの項目で減点されています。具体的には、ペグの埋没、テント用の紐ではなくフライ用のゴムに繋がっているなどがありました。今一度、テントの取扱説明書などで確認しておきましょう。張り網の張りが甘いパーティーもありました。最後に張り終えた後、ハンマーを含めすべての荷物をテント内に収納し、テントの入口とフライを閉じた状態で完成と見なされます。最後まで間違いなく設営できるように、練習を重ねてください。

### Ⅲ 知識

#### a 天気図

ラジオ放送をもとにしての天気図作成は、大変な作業であるかと思います。また、スマホの普及により山中でも気象情報が得られますが、圏外ではその情報も届かないので天気図作成は欠かせません。作成した天気図はチームにとっての共有財産になります。作成者以外が見ても読めるように丁寧な記入を心掛けて下さい。今回の審査では採点対象としませんでした。高気圧・低気圧の気圧の記入は記号の下に記入してください。移動速度は移動方向矢印の先に値と単位「km/h」を記入してください。

なお、富士山の気温の審査項目で、最初は「℃」の記述のないものは不正解として採点しましたが、登山部報（令和3年度65号）の「統一学習資料」の内容と矛盾していることが発覚したため、「℃」の記述のないものも正解として訂正しました。

#### b 知識テスト

[登山知識問題（2点）] 平均 1.6点, 最高 1.9点

登山部報「統一学習資料」の主な登山用語、また大会山域の地形図（国土地理院 1/2500「氷ノ山」）にある地図用記号が理解できていれば簡単な問題だったと思います。問題【3】4は断面図に関する問題です。山中には「山頂まで100m」などの看板が設置されていることがあり、そこから歩いて歩いても山頂に到着できない！といった体験があると思います。これは看板の距離表示が断面図の水平距離であり実測距離ではないため、「まだあ～！」などつぶやく前に断面図を理解しておくことです。

[気象問題（2点）] 平均 1.2点, 最高 1.9点

問題【1】は気象に関する一般的な知識で【2】は天気図の情報を読み取るための知識、【3】は観天望気により天気を予想するための知識をテーマとして出題しました。安全に山行を実施するためには天気の変化を予測する力が必要で、そのために最低限必要な知識問題と考えて出題しました。

[救急問題（2点）] 平均 1.5点, 最高 1.9点

山中では傷病者を横たえる場所すらない場合も多く、救急知識が必要になる事態がないように事前に準備をすることが最重要です。しかし、不幸にして救急事故が発生した場合の対処方法とそのため知識を中心に問題を出題しました。問題【2】4のとぎれとぎれの弱く浅い呼吸は「死戦期呼吸」といい、呼吸をしているように感じるかもしれませんが「呼吸停止」と判断し人口呼吸を開始してください。呼吸有無の判断などは難しいと思いますが、躊躇している間に傷病者は確実に「死」に向かっているものとして行動してください。出題はしませんでした。心臓マッサージは1分間で100～200回とされます。これは「もしもしカメよ～！カメさんよ～！」のリズムと覚えておいてください。

[共通問題（2点）] 平均 1.4点, 最高 1.9点

共通問題の多くは「コース案内」。また地形図（国土地理院 1/2500「氷ノ山」）を深く理解できていれば簡単な問題だったと思います。問題【1】6の「聞きなし」の問題は、入山する山域に生息する植物・動物、そして鳥たちにも興味を持ってもらいたいと感じ出題しました。問題【3】5および6の登山コースの問題は、正解でなかったチームが無事に下山でき、この講評を読めているのか不安を感じてしまいます。

なお、【3】1の「隆起によって形成された山である。」という○×問題は、解答がどちらとも捉えることが可能な問題となってしまうため、○×どちらの解答を選んでいても全員正解としました。

#### IV 読図

読図審査では以下の地点にフラッグを設置しました。

番号	地点名等	標高 [m]	正答率
1	東尾根登山口～東尾根避難小屋 屈曲点	900	86 %
2	一の谷からのトラバース終了地点 屈曲点	1,210	86 %
3	神大ヒュッテ～山頂 古生沼付近の屈曲点	1,460	89 %
4	山頂～仙谷分岐 屈曲点	1,440	89 %
5	仙谷分岐～氷ノ山越 鞍部	1,260	79 %
6	氷ノ山越北側の尾根からトラバースへの転換点	1,280	82 %
7	布滝頭 鞍部	1,250	43 %
8	大平頭避難小屋	1,210	82 %
9	大久保分岐	1,040	89 %
10	小代越分岐	1,020	96 %

満点の学校が男子5校、女子4校、平均点は男子8.0点、女子8.8点でした。

ポイントは、ピークや鞍部、尾根や沢の合流する地点、明らかにコースの方角が変わる地点など、明瞭な場所としました。コンパスで今歩いてきた方角、これから向かう方角を確認し、まわりの地形をよく観察した上で現在地を判断してください。山岳遭難の第一位が「道迷い」であるので、水平方向で変化（屈曲点）、垂直方向での変化（鞍部・ピーク）、分岐点などは入山前には地形図をもとに必ず確認しておくべき事項です。

#### V マナー・自然保護

夜間（就寝時間中）の立ち歩きで1校減点をしましたが、それ以外は規律の取れた行動を心がけてくれていたように思います。特に、開会式や各審査などへの集合は時間厳守で行動ができており、スムーズな大会運営につなげることができました。

今年度は、【歩行】【炊事】【記録】【計画書】の審査は実施しませんでした。



